



Red Hat Software Certification 2024

Red Hat ソフトウェア認定クイックスタートガイド

Red Hat ソフトウェア認定

Red Hat Software Certification 2024 Red Hat ソフトウェア認定クイック スタートガイド

Red Hat ソフトウェア認定

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

オンプレミス、仮想、パブリック、およびプライベートクラウド環境の Red Hat Enterprise Linux でソフトウェア製品を認定、デプロイ、および管理する方法に関する情報を提供する、すべての認定リソースのカタログです。バージョン 9.0 および 8.80 は、2024 年 5 月 28 日に更新されました。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
第1章 RED HAT ソフトウェア認定の概要	4
第2章 RED HAT OPENSIFT 認定	6
2.1. RED HAT CONTAINER STORAGE INTERFACE 認定	6
2.2. RED HAT CONTAINER NETWORK INTERFACE 認定	6
2.3. RED HAT ネイティブネットワーク機能	6
2.4. RED HAT OPENSIFT OPERATOR 認定	7
2.5. HELM チャート向け RED HAT OPENSIFT 認定	7
2.6. RED HAT OPENSIFT コンテナ認定	7
第3章 RED HAT OPENSTACK 認定	9
3.1. 前提条件	9
3.2. CINDER	9
3.3. MANILA	9
3.4. NEUTRON	9
3.5. RED HAT 仮想化ネットワーク機能認定	9
3.6. RED HAT ネットワーク機能仮想化認定	10
3.7. RED HAT OPENSTACK プラグイン認定	10
第4章 RED HAT ENTERPRISE LINUX ソフトウェア認定	11
4.1. コンテナ化された製品の RED HAT ENTERPRISE LINUX ソフトウェア認定	11
4.2. コンテナ化されていない製品の RED HAT ENTERPRISE LINUX ソフトウェア認定	11

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメントにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。多様性を受け入れる用語に変更する取り組みの詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) を参照してください。

第1章 RED HAT ソフトウェア認定の概要

Red Hat ソフトウェア認定プログラムは、Red Hat プラットフォームでのソフトウェア製品の互換性を確保するためのものです。Red Hat プラットフォーム上で製品を構築して認定を受けることにより、ソリューションの一貫性、相互運用性、およびサポート性が確保されます。

Red Hat 認定を取得することで、パートナーは自信を持って製品をデプロイし、価値のある革新的なテクノロジーをお客様に提供することに集中できます。

Red Hat ソフトウェア認定プログラムの主な利点は次のとおりです。

- 一度製品を構築すれば、ベアメタル、仮想化、パブリックおよびプライベートクラウドインフラストラクチャー全体にデプロイできます。
- Red Hat の専門知識を新しいテクノロジーで活用して、リスクを管理しながらイノベーションに時間をかけることができます。
- Red Hat と TSANet が協力してサポートを提供することで、信頼関係を築き、お客様の信頼を生み出します。
- Red Hat Ecosystem Catalog への掲載とプロモーションを通じて、市場の認識とお客様の需要を生み出します。

次の表を使用して、Red Hat プラットフォームで利用できる必要なソフトウェア認定を確認してください。

表1.1 Red Hat ソフトウェア認定マトリックス

認定プラットフォーム	アプリケーションとワークロード	インフラストラクチャーと自動化
Red Hat Enterprise Linux Platform	<ul style="list-style-type: none"> ● コンテナ ● RPM ● その他 	該当なし
Red Hat OpenShift Container Platform	<ul style="list-style-type: none"> ● Operator ● Helm Charts ● コンテナ ● CNF 	<ul style="list-style-type: none"> ● CNI ● CSI
Red Hat Ansible Automation Platform	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> ● Ansible Collection ポリシー ● Ansible Collection ワークフロー

認定プラットフォーム	アプリケーションとワークロード	インフラストラクチャーと自動化
Red Hat OpenStack Platform	<ul style="list-style-type: none">● コンテナ● NFV● VNF	<ul style="list-style-type: none">● Cinder● Manila● Neutron

第2章 RED HAT OPENSIFT 認定

Red Hat OpenShift 認定プログラムは、パートナーの製品を Red Hat OpenShift プラットフォームにデプロイした場合に、相互運用性、セキュリティー、およびライフサイクル管理に関する Red Hat の標準を満たせるかどうかを確認するのに役立ちます。

2.1. RED HAT CONTAINER STORAGE INTERFACE 認定

Container Storage Interface (CSI) 認定は、CSI ドライバーを使用して OpenShift と統合するストレージ製品を対象とした、Red Hat OpenShift 認定内の専門的認定です。

CSI 認定の詳細は、以下を参照してください。

- [Container Storage Interface \(CSI\)](#)
- [認定ワークフロー](#)
- [OpenShift の認定済みクラウドネイティブネットワーク機能](#)

関連情報

- [Container Storage Interface の管理](#)
- [Container Storage Interface の使用](#)

2.2. RED HAT CONTAINER NETWORK INTERFACE 認定

Container Network Interface (CNI) 認定は、[CNI プラグイン](#) を使用して OpenShift と統合するネットワーク製品を対象とした、Red Hat OpenShift 認定内の専門的認定です。

CNI 認定の詳細は、以下を参照してください。

- [Container Network Interface \(CNI\)](#)
- [認定ワークフロー](#)
- [OpenShift の認定済みクラウドネイティブネットワーク機能](#)

関連情報

- [Certified OpenShift CNI Plug-ins](#)
- [CNI specification](#)

2.3. RED HAT ネイティブネットワーク機能

クラウドネイティブネットワーク機能 (CNF) と仮想ネットワーク機能 (VNF) は、コンテナ内で実行するように設計および実装されたネットワーク機能です。CNF 認定は、Red Hat Operator 認定に基づいています。Red Hat とパートナー間のコラボレーションを拡大し、通信事業者のデプロイメントに特化したベストプラクティスを適用します。

CNF 認定の詳細は、以下を参照してください。

- [CNF および VNF 認定](#)

- [認定ワークフロー](#)
- [OpenShift の認定済みクラウドネイティブネットワーク機能](#)

関連情報

- [About cloud-native network functions](#)
- [Building CNF applications with OpenShift Pipelines](#)

2.4. RED HAT OPENSIFT OPERATOR 認定

Red Hat OpenShift Operator 認定プログラムでは、Red Hat OpenShift 用の Operator を認定できます。Red Hat OpenShift 認定 Operator を使用するお客様は、Red Hat またはパートナー ISV が提供する、完成度が高く十分に統合された、検証済みかつサポート対象の Operator の利点を、自社のハイブリッドクラウド環境で活用できます。

Operator の詳細は、以下を参照してください。

- [What are Operators?](#)
- [認定 OpenShift Operator](#)
- [コンテナイメージの要件](#)
- [Operator の要件](#)
- [オペランドの要件](#)

Red Hat OpenShift Operator 認定の開始については、以下を参照してください。

- [コンテナの使用](#)
- [Operator の使用](#)

2.5. HELM チャート向け RED HAT OPENSIFT 認定

Helm は、Kubernetes ネイティブの自動化テクノロジーおよびソフトウェアパッケージマネージャーであり、アプリケーションとサービスのデプロイを簡素化します。Helm チャート向け Red Hat OpenShift 認定プログラムは、Kubernetes クラスターでのアプリケーションまたはインフラストラクチャーソフトウェアのデプロイを容易に自動化する方法を提供します。

Helm チャートの詳細は、以下を参照してください。

- [What is Helm?](#)
- [Application automation with Kubernetes](#)
- [Helm チャート認定ワークフロー](#)
- [Helm Operator の構築](#)

2.6. RED HAT OPENSIFT コンテナ認定

Red Hat OpenShift コンテナ認定プログラムは、コンテナ化されたソフトウェアをクラウド上に構

築およびデプロイする際に役立つ広大なエコシステムを提供します。Red Hat の Universal Base Image (UBI) は、堅固で安定した RHEL ユーザー空間を提供し、コンテナ開発プロジェクトに着手する際の作業を効率化します。

- コンテナ認定の概要については、[Red Hat Container Certification](#) を参照してください。
- コンテナイメージの要件の詳細は、[コンテナイメージの要件](#) を参照してください。
- コンテナ認定を開始するには、[コンテナの使用](#) を参照してください。

第3章 RED HAT OPENSTACK 認定

Red Hat OpenStack Platform (RHOSP) は、コアやエッジをはじめとした、実績のある統合テクノロジーをベースに、スケーラブルで柔軟なクラウド環境を構築するための機能を提供します。

3.1. 前提条件

認定を開始する前に、[Red Hat OpenStack Certification - Red Hat Partner Connect General Guide](#) の前提条件を満たしていることを確認してください。

3.2. CINDER

Red Hat Block Storage サービス (cinder) は、運用、セキュリティー、スケジューリングの管理と、すべてのボリュームの全体的な管理を行います。

- cinder テストとサブテストの詳細は、[cinder テスト](#) を参照してください。
- この認定の実行方法に関する詳細な手順は、[認定ワークフロー](#) を参照してください。
- cinder サービスの設定オプションの詳細は、[cinder](#) を参照してください。

3.3. MANILA

Red Hat OpenStack Shared File Systems サービス (manila) を使用すると、複数のコンピューターインスタンスで使用できる共有ファイルシステムをプロビジョニングできます。

- manila テストとサブテストの詳細は、[manila テスト](#) を参照してください。
- この認定の実行方法に関する詳細な手順は、[認定ワークフロー](#) を参照してください。
- manila サービスの設定オプションの詳細は、[manila](#) を参照してください。

3.4. NEUTRON

Red Hat OpenStack ネットワーキングサービス (neutron) は、RHOSP に統合されている [Tempest Framework](#) を使用した基本および運用上の機能テストを含む、OpenStack ネットワーキングコンポーネントの機能テストに役立ちます。neutron には、ネットワーク、IP アドレス管理 (IPAM)、ルーターのサポートが含まれており、内部ネットワークと外部ネットワーク間のルーティングが可能です。

- neutron テストとサブテストの詳細は、[neutron テスト](#) を参照してください。
- この認定の実行方法に関する詳細な手順は、[認定ワークフロー](#) を参照してください。
- neutron サービスの設定オプションの詳細は、[neutron](#) を参照してください。

3.5. RED HAT 仮想化ネットワーク機能認定

Red Hat OpenStack Application 認定は、仮想ネットワーク機能 (VNF)、ネットワーク機能仮想化 (NFV)、管理およびオーケストレーション (MANO) などの Openstack アプリケーション、および RHOSP 環境で実行するアプリケーションを使用したシステムの認定を希望するパートナーを対象としています。

- VNF 認定テストの詳細は、[認定テスト](#) を参照してください。

- この認定の実行方法に関する詳細な手順は、[認定ワークフロー](#) を参照してください。

3.6. RED HAT ネットワーク機能仮想化認定

ネットワーク機能仮想化認定では、Red Hat OpenStack Platform での新しいテストを提供し、互換性とサポート性を確保することで、活気あるパートナーエコシステムによって生み出されたソリューションのリスクを低減し、効率を高めます。

- NFV 認定の詳細は、[What is NFV?](#) を参照してください。
- NFV の詳細は、[ネットワーク機能仮想化の設定](#) を参照してください。

3.7. RED HAT OPENSTACK プラグイン認定

Red Hat OpenStack Platform は、コンテナのプラグイン認定を提供します。認定対象のコンテナは、パッケージング、配布、およびメンテナンスに関する Red Hat の標準を満たしている必要があります。Red Hat が認定したコンテナは、高い信頼性と、Red Hat OpenStack Platform をはじめとするコンテナ対応プラットフォームでのサポート性を備えています。

- OpenStack プラグイン認定を開始するには、[新しい認定または再認定プロジェクトの作成](#) を参照してください。
- プラグイン認定テストの詳細は、[信頼できるコンテナテスト](#) を参照してください。
- カスタマイズされたコンテナイメージが必要になる条件を確認するには、[Red Hat OpenStack Certification - Red Hat Partner Connect General Guide](#) を参照してください。
- OpenStack プラットフォームで Red Hat がサポートするドライバーとプラグインについては、[Component, Plug-In, and Driver Support in Red Hat OpenStack Platform](#) を参照してください。

第4章 RED HAT ENTERPRISE LINUX ソフトウェア認定

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) ソフトウェア認定プログラムは、高いセキュリティと安定性を持つプラットフォーム上で、最高クラスのパフォーマンスをアプリケーションに提供するためのものです。このプログラムを利用すると、アプリケーションを構築する際に、ワークロードのパフォーマンスを確認、分析、および微調整できます。

お客様は、Red Hat とパートナーによってテストされ、共同でサポートされている、信頼できるアプリケーションとインフラストラクチャスタックの恩恵を受けることができます。

4.1. コンテナ化された製品の RED HAT ENTERPRISE LINUX ソフトウェア認定

コンテナ化された製品の Red Hat Enterprise Linux ソフトウェア認定プログラムは、Red Hat Enterprise Linux および Red Hat OpenShift のスケーラブルなコンテナプラットフォームでクラウドネイティブ製品を構築、認定、および配布する際に役立ちます。

- コンテナ認定の概要については、[Red Hat Container Certification](#) を参照してください。
- コンテナイメージの要件の詳細は、[コンテナイメージの要件](#) を参照してください。
- コンテナ認定を開始するには、[コンテナの使用](#) を参照してください。

4.2. コンテナ化されていない製品の RED HAT ENTERPRISE LINUX ソフトウェア認定

従来のコンテナ化されていないソフトウェア製品の Red Hat Enterprise Linux ソフトウェア認定プログラムは、独立系ソフトウェアベンダー (ISV) が、RHEL を実行しているシステムおよびサーバー環境におけるアプリケーションソフトウェアのデプロイと動作を検証するのに役立ちます。

- 認定要件の詳細は、[プログラムの前提条件](#) を参照してください。
- 認定プロセスを開始するには、[認定パートナーのオンボーディング](#) を参照してください。
- 認定プロセスの実行に関する詳細な手順については、[認定ワークフロー](#) を参照してください。

4.2.1. RPM ベースの製品の Red Hat Enterprise Linux ソフトウェア認定

RPM ベースの製品の Red Hat Enterprise Linux ソフトウェア認定プログラムは、独立系ソフトウェアベンダー (ISV) が、RHEL を実行しているシステムおよびサーバー環境用に RPM としてパッケージ化したアプリケーションソフトウェアを構築、認定、および配布する際に役立ちます。ISV は、**yum** リポジトリを使用して、RPM としてパッケージ化されたアプリケーションソフトウェアを配布できます。

- ISV 向けの RHEL ソフトウェア認定を開始するには、[認定パートナーのオンボーディング](#) を参照してください。
- 認定テストを実行するための要件については、[テスト要件](#) を参照してください。
- 認定プロセスの実行に関する詳細な手順については、[認定ワークフロー](#) を参照してください。

4.2.2. その他のパッケージ形式の Red Hat Enterprise Linux ソフトウェア認定

その他のパッケージ形式の Red Hat Enterprise Linux ソフトウェア認定プログラムは、独立系ソフトウェアベンダー (ISV) が、お客様の Red Hat サポート、セキュリティ、およびライフサイクル管理に

影響を与えない方法で、RHEL を実行しているシステムおよびサーバー環境でのアプリケーションソフトウェアのデプロイと動作を検証する際に役立ちます。

このソフトウェア認定は、Red Hat によって正式にサポートされていないソフトウェア製品のパッケージ化/配布方法を使用している ISV 向けに提供されています。

- ISV 向けの RHEL ソフトウェア認定を開始するには、[認定パートナーのオンボーディング](#) を参照してください。
- 認定テストを実行するための要件については、[テスト要件](#) を参照してください。
- 認定プロセスの実行に関する詳細な手順については、[認定ワークフロー](#) を参照してください。

場合によっては、Red Hat ソフトウェア認定の取得に必要なパッケージ化または配布方法を Red Hat が指定することもあります。